

Surgical Repair for Acute Type A Aortic Dissection in Patients Aged 80 Years and older: Temporal Trends and Long-Term Outcomes in a Super-Aged Society

80 歳以上の急性 A 型大動脈解離患者に対する外科手術：超高齢社会における成績推移と長期予後

◆研究の目的と概要◆

急性 A 型大動脈解離（ATAAD）は致死性の疾患であり、緊急手術が標準治療である。近年、若年から壮年層の成績は改善しているが、高齢者では依然として手術死亡率が高い。特に 80 歳以上は全国レジストリ（JRAD）でも院内死亡の独立したリスク因子とされる一方、長期予後に関する報告は乏しい。本研究は 2000～2024 年に当院で手術を受けた 80 歳以上 ATAAD 患者 138 例を対象に、25 年間の手術成績の推移を明らかにすることを目的とする。具体的には、前期（2000-2014 年）と後期（2015-2024 年）での院内成績の比較、退院後生存率および大動脈関連死亡の累積発生率の検討、さらに非自宅退院のリスク因子解析を行い、超高齢社会における最適な治療戦略構築に資する知見を得ることを目指す。

◆対象となる患者さん◆

2000 年 1 月から、2024 年 8 月までの間に、急性大動脈解離に対して外科的手術を施行された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

生年月日、手術時年齢、性別、身長・体重、体表面積、喫煙歴、既往歴、これまでの治療経過、各種検査の結果、手術内容（手術時間、使用した人工血管）、術後イベント、退院時の転帰（自宅退院、転院）、退院後の経過（外来での検査結果、再手術の内容、再手術の日付）

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025 年 10 月 7 日

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で

発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

心臓血管外科 研究責任者 _____ 山下剛生 _____

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明